

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Association between preconception dietary inflammatory index and neurodevelopment of offspring at 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前の食事性炎症指数と3歳時神経発達に関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrition

年: 2022 DOI: 10.1016/j.nut.2022.111708

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の食事性炎症指数と3歳時神経発達との関連について調べました。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、単胎妊婦を対象としました。妊娠前の食事の内容から、炎症をもたらす食事(炎症傾向食)の程度について食事性炎症指数(Dietary inflammation index: (DII))を計算しました。この指数に基づいて、対象者を5グループに分類し、子どもの性別でさらにグループ化しました。多変量解析を用いて、妊娠前の食事性炎症指数が3歳時神経発達に与える影響を用いて評価しました。3歳時の神経発達はASQ発達スクリーニング検査を用いました。

結果:

本調査参加者のうち65952人が解析対象者となりました。解析の結果、妊娠前の食事性炎症指数が高い妊婦から生まれた子どもは、食事性炎症指数が平均的なグループの妊婦から生まれた子どもと比較して、男児における微細運動、女児における粗大運動の発達が遅れるリスクがそれぞれ1.23倍、1.24倍となりました。

考察(研究の限界を含める):

近年、胎児期の様々な出来事が成人後の疾病発症に影響をあたえるというDOHaD(Development Origin of Health and Disease)の概念が提唱されています。今回の結果により妊娠前からの食生活により、子どもの神経発達に影響を与えることが示され、妊娠前の食習慣改善の重要性を示すものと思われます。本研究の限界は神経発達評価については、保護者の自記式質問票によるスクリーニング検査であることです。

結論:

本研究の結果から、3歳時の神経発達は妊娠前の母親の食事の向炎症性に影響をうける可能性が示唆されました。